

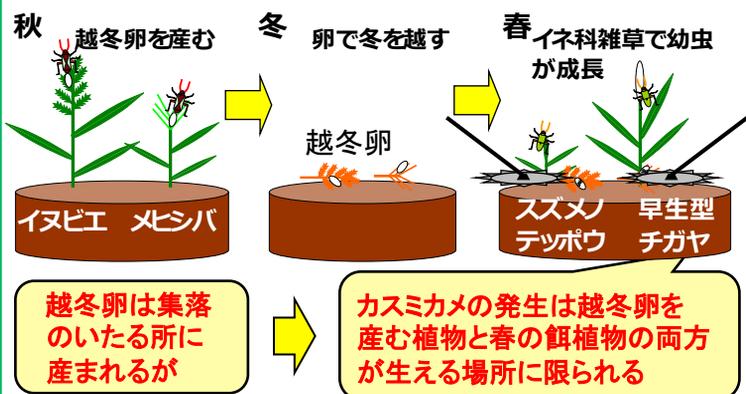
水田の斑点米カメムシを低減する植生管理技術（静岡県）

《適切な植生管理でアカスジカスミカメを防除する》

ポイント

- ▶近年急増しているアカスジカスミカメは、春の雑草管理で効率的に防除することができる。
- ▶秋冬に産卵植物があり、かつ春にふ化した幼虫の餌植物がある畦畔際や休耕田を対象に、4月上中旬に除草や耕起を行なう。
- ▶集落単位の取り組みが重要。水田単位では効果が低い。

★植生管理のコツ = 初期発生源の管理



斑点米の原因となるアカスジカスミカメ



初期発生源となる春の餌植物

★具体的な管理場所



【1】春の幼虫の餌植物が生える休耕田・雑草地



【2】春の幼虫の餌植物が残る田んぼと畦の境目

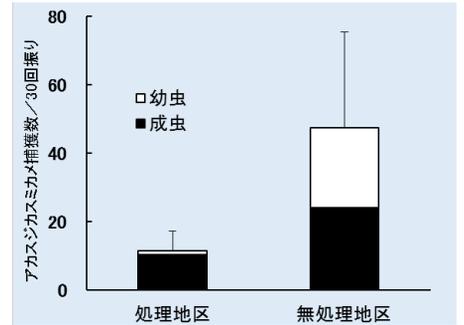
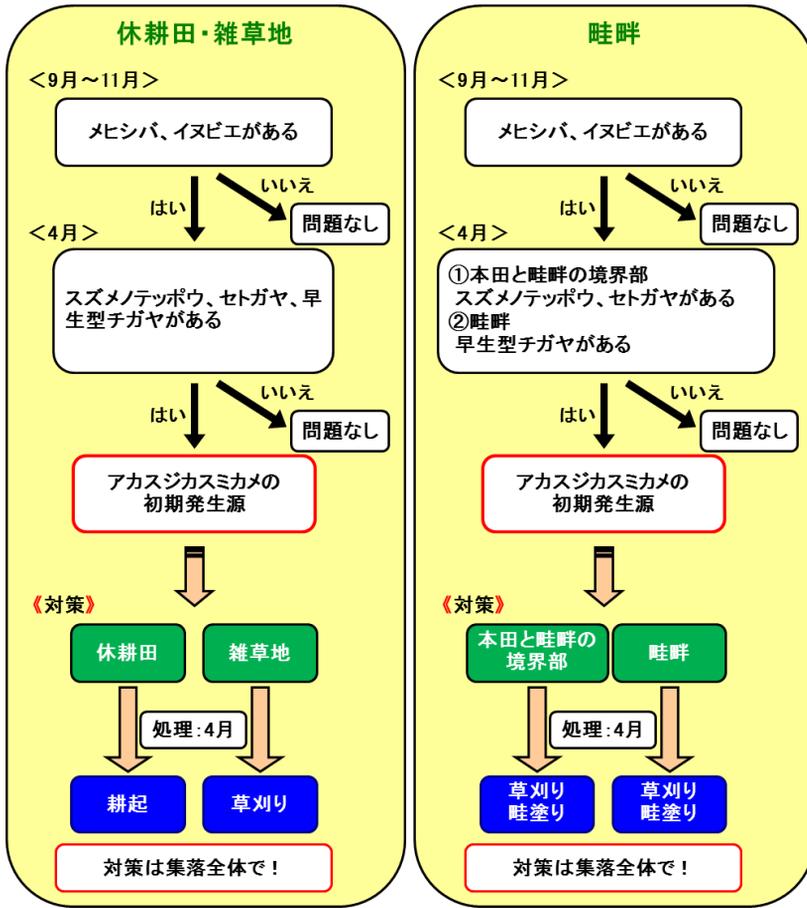
★初期密度の低減に有効な管理作業



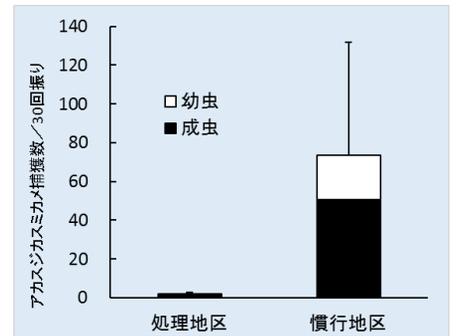
- ・越冬卵を土中に埋め込む
- ・春の餌植物をなくす

- ・春の餌植物をなくす

アカスジカスミカメ初期発生源を叩くフローチャート



(2) 水稻生育時の畦畔における発生
4/30~6/4 6回調査の合計値



(2) 出穂後の本田内における発生
7/22~8/19 5回調査の合計値

図 集落単位の雑草管理による
アカスジカスミカメ抑制効果

初期対策実施後も天敵の利用や高刈りでアカスジカスミカメの増殖を抑制



コモリグモ

アカスジカスミカメを畦畔上で捕食

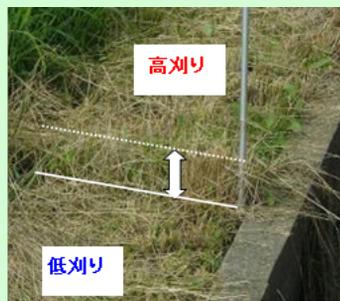


コオロギ類

アカスジカスミカメの餌となるイネ科雑草の種子を摂食



シバザクラやヒメイワダレソウの畦畔植栽で、コモリグモとコオロギ類が増える



畦畔の草刈り高を10cm程度に高めた「高刈り」を4月中下旬と7月上旬の2回行うことで、アカスジカスミカメの餌となるイネ科雑草を抑制できる

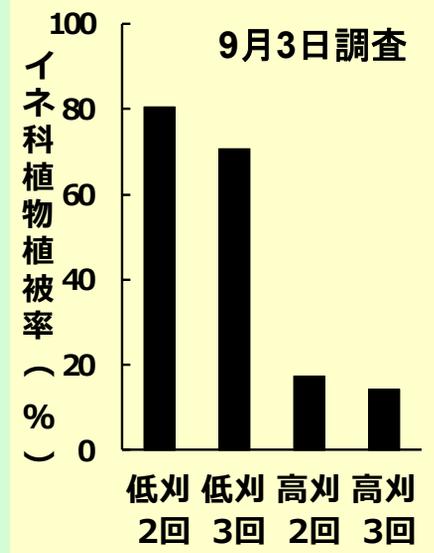


図 草刈高と回数がイネ科雑草の植被におよぼす影響